

なでしこ通信



令和3年8月10日発行

vol. 176

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

お楽しみ会パート②

～みんなで楽しむミュージック!～



歌に合わせてロープ鈴

5月27日(木)、お楽しみ会「みんなで楽しむミュージック!」を行いました。「小鳥の歌」に合わせてロープ鈴を振りお楽しみ会がスタート!職員と一緒に鈴を鳴らしていると利用者さんの顔が笑顔になってきます。ロープ鈴が終わると「オブラディオブラダ」の曲に合わせて元気に鳴子を鳴らします。

リーダーの合図で「オー!!」と元気いっぱい鳴子を持った手を上げ、楽しく歌っていると利用者さんもワクワクしてきました。そして車イスリズムの始まりです。「さんぽ」の曲に合わせて、職員が利用者さんの車イスを押しながら前に進んだり、バックしたり、ジグザグに進んだり、走ったりしているうちに利用者さんも職員にも笑顔があふれてきました。

最後は、優しい色のスカーフを音楽にあわせ利用者さんの上でゆっくりと、みんなを包み込むようにフワフワと揺らし、お楽しみ会は終了となりました。音楽をみんなで「見て」「聞いて」「感じる」

楽しい時間になったのではないのでしょうか。

本来行事は、利用者さん、家族の皆さん、職員みんなが集まり、一体感を持ち楽しむのですが、今回は感染対策のため、部屋ごとに分かれて行いました。今後も感染対策に配慮しながら利用者さんが笑顔で過ごせるよう毎日を大切に過ごしていきたいと思います。

(指導員:齋田)



フワフワのスカーフでリラックス～

お楽しみ会パート③

～お店屋さんごっこ&オリジナル商品販売会～

6月24日(木)のお楽しみ会は、幼児はお店屋さんごっこ、成人利用者さんたちはオリジナル商品販売会と題して、一人ひとりが、某有名なお店と提携を結んだと仮定して、事前の個別活動でオリジナル商品を開発し、商品化を進めました。当日にルームメイトと互いに買い物を楽しもうという企画です。担当職員と利用者さんが、一緒に個別活動の中で、質の高い商品を作り上げることができていて、当日までに楽しみだなという気持ちと期待感を高めることもできました。

お楽しみ会当日は、各部屋で利用者さんが店員さんになりきっている姿、お互いにお客になり買い物を楽しむ姿、何よりも店長になった利用者さんが、一生懸命職員と一緒に、仕上げの作業としてトングを持って盛り付けている姿が素敵でした。買った商品を見て自ら手を出し、食べる仕草をする方がいたり、お店が閉店したら目を閉じる様子もあり、それぞれが楽しみながら

参加してくれていました。商品化された商品はとても素晴らしかったので、その後もしばらく出入り口に並べ、他の利用者さんにも見てもらえるように飾らせてもらいました。

(入所保育士:田端)



ドーナツいかがですか?



お弁当おいしそう!

七夕行事



7月7日(水)、七夕行事を行いました。行事当日までに利用者さんは職員と一緒に願い事を考え、短冊に書いて笹に飾り当日を楽しみにしていました。みんなの願い事が飾られた笹がフロアに飾られ行事が始まりました。行事の始まりは七夕のお話からです。会場が暗くなりプロジェクターで七夕の映像が流れる中、お話を楽しみました。お話が終わると夏の夜空のようなスヌーズレンを堪能

しました。動く光や色を、それぞれに楽しんでいました。最後に大きなスカーフを揺らすと光がスカーフに映りとても幻想的な雰囲気、利用者さんもリラックスしている方が多くみられました。

新型コロナウイルスの影響により行事の内容も変化し、今回の七夕行事も利用者さん同士が密にならないようにグループごとに行いましたが、グループに合わせた七夕行事を行うことができたことはよかったです。



す。でも来年こそはやっぱりみんなが集まって賑やかに七夕行事ができることを願っています。

(指導員：倉井)



7月7日(水)に通所で、七夕行事を行いました。

フロアには、たくさんの七夕飾りや願い事を書いた短冊が飾られ、七夕の雰囲気を感しながら活動しました。

七夕の絵本の読み聞かせの後に、天の川が現れ、フロアにちりばめら

れた星を探し出し、星の橋を作るゲームをしました。星を見つけると指さして職員に知らせ、自ら星を手取る利用者さんなど各々楽しんで活動に参加されていました。

みつけてきた星は、スズランテープで作った天の川に職員と一緒に貼る方や、流れ星のようにポ

イッと投げて貼り付ける方など、それぞれが貼り付けやすい方法で貼っていき、天の川の橋を完成させました。

最後は、七夕の歌をうたい七夕行事を終えました。

「みんなの願いが、叶いますように」
(通所保育士：奥野)



天の川をバックに記念撮影!



星をみつけたよ!

日帰り旅行



5月19日 度会周辺ドライブ ~ルピナス畑にて~



6月2日 宮リバー度会パーク



6月9日 二見しょうぶロマンの森

6月2日(水)、利用者さん4名と宮リバー度会パークへ日帰り旅行に行きました。

はるとくんは、呼吸器を装着中の4歳の男の子です。バスで旅行に出かけるのは初めての経験でした。この旅行を成功させるため、事前にははるとくんと一緒にバスに乗り込むまでの練習をしました。はるとくんは職員が準備をする間も、バスに乗り込むのに少し手間取ったときも、終始落ち着いた様子で練習に参加してくれました。

そして当日は、出かけるギリギリで雨が降り出し心配しましたが、

出発する時には晴れて、利用者さんも職員も晴れやかな気持ちで出発することができました。バスの中では利用者さんの本当に嬉しそうな笑い声で、職員も幸せな気分になりました。到着してみんなで散歩をしている間も、利用者さんたちはいつもは見ることもできないような素敵な表情で過ごしていました。公園のベンチで、おやつタイムを楽しむこともできました。はるとくんも川から吹いてくる爽やかな風を感じ、気持ち良さそうに過ごしていました。

約2時間半の小旅行を悠々と過

ごすことができたはるとくんに、着々と成長していることを実感した一日でした。そして他の利用者さんにも、いつもと違う活気のある表情に、職員も楽しい時間を共有させてもらい、無事に日帰り旅行を終えることができました。

今回の日帰り旅行で、利用者さんの日頃見ることができない表情に触れることができたことと、一つの目的に向かって多職種で協力し準備、実行でき、有意義な時間を過ごすことができました。

(看護師：大内)

第13回みえる輪ネットをオンライン開催 ～地域に根差した実践 そこから見えるもの～

6月27日(日)、第13回みえる輪ネットがオンラインにて開催され、今回は93名の関係者にご参加いただきました。今回は「地域に根差した実践 そこから見えるもの」をテーマに、開催担当市町である尾鷲市、紀北町で活動されている特定非営利法人あいあい宮原香奈子様と、かとう小児科院長 加藤康子先生よりご講演いただきました。宮原様からは法人設立から現在の事業に至るまで、地域のニーズに合わせながら法人内の事業内容を増やしていくことで、利用者の生活に寄り添った取り組みをしていったことなどをご発表いただきました。加藤先生からは

重症児者との出会いから、自らが地域で開業され重症児と向き合うようになり、手探りで障害がい児グループ療育をボランティアで始められたことなどをご講演いただきました。どちらのご講演も地域のニーズ、障がい児者のニーズに寄り添い、『ないものは作ったら良いんだ』と様々なことに取り組みされた行動力は、私自身の日々の支援を振り返ったときに学ぶことが多い内容でした。

また、なでしこ別所指導員からは三重県小児在宅医療検討委員会、周産期委員会で作成された「災害時対応ノート」の必要性とその作成について発表しました。先日、

他県で大雨による大規模な土砂崩れがありました。災害は他人事ではなく、必ずやってくるものとして、その準備をしていくために災害時対応ノートはあります。みえる輪ネットを通じてその重要性が少しでも伝わればと思います。

(指導員：倉井)



人混みでも大丈夫 愛知の動物園 障がい者に休園日開放

福祉ニュース障害福祉編2021年4月号より「人混みでも大丈夫 愛知の動物園 障がい者に休園日開放」の記事を紹介させていただきます。

愛知県豊橋市の豊橋総合動植物公園で昨年11月より、さまざまな障がいにより来園が難しい人にも落ち着いた環境で動物を見てもらおうと、事前申し込みがあれば休園日を開放する取り組みが始められたという記事です。このことは全国でも珍しく、利用者からも好評だそうです。小学生以上が第2、4月曜日、未就学児が第3月曜日のそれぞれ午前10時～午後3時で最低1人の付き添いが必要で、園のホームページ経由で申請し許可証を取得します。

この園は2019年度、96万人が訪れた人気の動物園です。ただ障がいのために人混みや大きな音によって不安になったりパニックに

なったりするかもしれないと、来園をためらう人は少なくないと言われています。

障がいのある人向けの特別開園は、1996年オランダのロッテルダム動物園が始めた「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」などがあります。国内各地でも実施されてはいますが回数制限や夜間のみといった制約があることが多い中、豊橋総合動植物公園は「日中などより多くの機会を設けたい」と休園日の開放が決められたそうです。

祝日の代休で休園日だった日には三重県の福祉施設の利用者や付添い職員が来園し、約2時間を過ごしました。この施設の理事長は「新型コロナウイルスの影響で外出先を見つけるのにも苦労していたのでありがたい。利用者の家族も安心だ」と喜ばれたと紹介されています。園の担当者は「今後も

多くの人を楽しめる動物園を目指したい」と話しているそうです。

この動物園になでしこの皆さんと行くには少し遠く難しいかもしれませんが、こんな施設が少しずつ増えていけば良いと感じ、この記事を選ばせてもらいました。

以前なでしこ入所者のご家族がお出かけについて、「出先で泣いたり大きな声を出して迷惑がかからないか心配だから」と悩まれていたことがありました。このような施設が身近にあれば入所者やご家族の心配事が軽減され、選択肢や楽しみが広がるかもしれません。

新型コロナウイルス対策のためにご家族との外出はもう少し我慢する日が続きそうですが、明るい話題を見つけて大切にしつつ、まずは今楽しめることを日々考えていければと思います。

(看護師：井村)

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

..... 研修に参加して感じたこと

～「社会福祉施設における感染症対策」を聴講して～

新型コロナウイルスによるパンデミックから既に1年以上が経過し、未だその感染は日に日に広がり予断を許さない状況となっています。今回、私は国立病院機構三重病院院長 谷口清州先生の「社会福祉施設における感染症対策」という内容の研修を通して、感染症について考える機会を得ました。

そもそも感染症の成立条件は、下記の3つでありその中の一つを阻害することができれば感染は成立しません。

- ①感染源(病原体が存在する)
- ②感染経路(病原体がヒトに到達する)
- ③感受性(病原体への抵抗力がない)

一番合理的なのは③の感受性であり、予防接種を行い病原体への抵抗力をつけることで感染症を阻害できます。既にファイザー社の予防接種を2度行うことで95%感染を回避、または軽症に抑えることができる事がわかっています。このウイルスは、重症化を招きやすく、例え若くて元気な人であっても死亡例が多数出ています。ワクチンで大多数が防げるのであれば、皆が正しい知識を知り正しい方法で予防をすることで、いつもの日常に戻るのとはそう遠くはないのかもしれませんが、なでしこでは職員全員がワクチン接種を行い、現在は利用者さんへのワクチン接種が進んでいます。ワクチン接種

を進めていくと同時に、日常を取り戻すために私たちにできることとして今まで施設内で実施してきた感染対策(手指消毒やマスクの着用、換気、備品等の清拭、食事時の黙食など)は引き続き徹底していきたいと思っています。

(入所保育士：堀川)

